

近畿 ESD コンソーシアム総会 ESD 研修会概要報告

- ◇開催日時 平成 29 年 7 月 8 日 (土) 13 時 30 分～16 時 30 分
- ◇会場 奈良教育大学大会議室
- ◇参加者数 56 名

◇ESD 研修会

「国連持続可能な開発目標 (SDGs) と学校実践をつなぐ」

講師：江東区立八名川小学校 教諭 小野瀬 悠里 氏

1. SDGs とは

- ・ 2016 年から 2030 年までの目標 17 の目標と 169 のターゲット
 - ・ そもそもゴールを設定する意味とは？
- 目標をオープンにすることにはメリット・デメリットの双方がある
→ しかしあえてオープンにする
→ **未達成の明確化と共通の指標が示された**
- ・ 指標としての SDGs の活用が实际的。企業の CSR にも活用されている。
 - ・ SDGs はすべての国に関わること (先進国も途上国も)
 - ・ キーワードは「誰ひとり取り残さないこと (その世界の実現)」



※SDGs は地域・教育でどのように活用すればよいのか

第 8 回ユネスコスクール全国大会において、「地域の特性を生かし、積極的にゴールを選択する」ことをテーマに話し合われた。169 ものターゲットがあるので、ゴールを絞るべきでは？

それに対する手島校長の意見「八名川小は全部に取り組んでいます」

- 169 のターゲットを学習内容にするのではない。
- これまでの活動を見直しつつ、SDGs の視点で新たな価値付けをするべき。

2. 八名川小学校での取組

指導目標ではなく、評価 (成果) 指標 (入口というより出口) として SDGs を活用する。

日本の教育はよくできているので、丁寧に実践すれば SDGs の項目は自然と色々と達成できるはず。あえて、SDGs を指導目標にする必要はない。

(1) 校内研究

「しん」のある子 「進」「心」「芯」

ESD カレンダーの作成・改善 総合を中心に各教科を関連付ける

つながりで達成する次期学習指導要領の「深い学び」の実現

学習過程の確立

価値ある問題作り (地域の教材化・切実性)

行動する場の設定・発表の場の設定

主体的に学ぶ・協働的に学ぶ・つながりで学ぶ

子どもたちが生きていく社会的な問題としての SDGs の位置づけ

(2) 学びに火をつける導入の工夫

①自分たちがやらなければ！と思える学習材との出会いのプロデュース。

②「対話」を授業づくりの中心にすえた展開。他者との対話も重要だが、自己内対話を重要視する。

自分と向き合い、友達と学び合う対話型授業

(3) 教科横断的なカリキュラムマネジメント

テーマを多面的に学ぶ。他教科との関連づけ。総合で「調べる」ことに終始しない。

「ESDカレンダー」という「考え方」

(4) 知識伝達型の学びから探究型の学び

総合に限らず、「学びに火をつける」という「学習スタイル」

※実践の中で改善策を生み出していくことこそ、カリキュラムマネジメント！

(5) 教員のゴール

楽しい、もっとやりたい、と児童生徒が感想をもつことができれば実践は成功している。

誰一人取り残さない世界の実現がゴール それに寄与する人材育成が我々の使命

※ESDを広げていくには、学校長のリーダーシップが重要（守ってくれる管理職）

※子どもの変容の姿で訴えることが、まわりを変えていく。

※ジグソー的な教職員の協力関係の構築（適材適所）で全校的に進めていく。

